

吉川市みらいステップアップ助成事業

不登校を理解するために

～「自分の力」で歩き出す、その時を信じて～



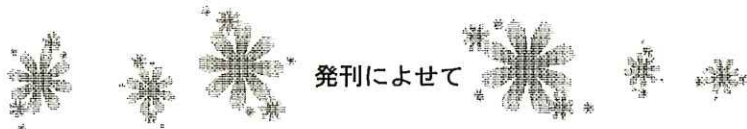
不登校には深い意味があります。

心の傷に苦しみ悩みながら助けを求める子どもの必死のサインです。

その子の親や教師に求められているのは励ましでも助言でもなく、

子どもの傍に居てその話を聞き続けることです。

広木克行(神戸大学名誉教授)



発刊によせて

学校現場において、不登校は、喫緊の課題となっております。教職員も方法を模索しながら児童生徒一人一人に合った解決方法を考え、学校内で共有し対処しております。そのような課題に取り組む一助になるべく、冊子を作っていただいたことは、教職員の「視野」を広げていく大切な機会になると思っております。

イラストも交えながらわかりやすく項目化されている内容には、長く寄り添い続けてきたからこそその重みを感じられます。

今後も各学校では保護者とともに最善の方法を模索しながら、児童生徒一人一人を大切にすることを進めて参ります。皆様方のご支援よろしくお願い致します。

吉川市教育委員会 学校教育課長 清水 孝二

不登校になって一番苦しいのは、子ども。

このことが、ふと心の底から感じられるまでに、保護者や教員など大人たちは長い紆余曲折をたどります。子どもは大人が考えるよりもずっと、親や先生を悲しませたくない、余計な心配をさせまいという気持ちをもちます。だから、無理に登校させられても学校では楽しそうな表情だったり、学校に行く約束をしてみたりします。そこに大人の思い違いが生じます。生活や登校の形を取り繕う大人の試みは、子どもの傷を深くしています。無理して演じるほど、親や先生の期待に応えられない自分には価値がないと思わせてしまうのです。その抱え込んだつらさが、昼夜逆転の生活やゲームへの没頭や自室への閉じこもりになったりします。そのような中で、教員は親の接し方が悪いとか、保護者は先生が理解してくれないとか、互いに不信感をもってしまうこともあります。

これまで、不登校の子どもをもつ保護者たちは、そうして子どもを追い詰めてしまう失敗もしながら、不登校を何とかしようという大人の試みは、一番苦しんでいる子どもを抜きにした大人の都合だと気づく歩みをたどってきました。大事なことは、寝ても覚めても悩み自分を見つめ続けている子どもを信じて、半歩後ろで寄り添うことだと。

今やろうとしていることが、子どもたちの発するサインに本当に応えるのだろうか、立ち止まり肩の力を抜いて、もう一度子どもの声に耳を傾けてみるために、この冊子をご活用ください。そうして、子どもたちが感じている息苦しさ、そりやそりだよなああと私たち大人社会の難しさと重ね写しになる頃には、子どもへのいとおしさが増してくるのではないかと思います。

埼玉大学教育学部教授 馬場久志

はじめに

「今の子ども達は高速道路を走り続けているようなもの。自分のペースではなく、他者の流れに乗って走らなくてはいけない。しんどくなり、疲れるからサービシアreaで深呼吸・休息し、自分を取り戻す必要がある」とある先生が言っていました。過度の競争・他人との比較・管理の中で疲弊しているのかもしれない。



不登校とは、怠けや反抗のように見える場合もありますが、その心の底には何らかの「不安」「自信がもてない」「ストレス」などを抱えています。不安定な感情をコントロールできずに、困った状態を表すこともあります。ずっと続くわけではありません。強く否定したり、無理強いをしたりせずに、本人の不安を和らげるように接していきましょう。大丈夫です。自分を取り戻せたらきっとまた、歩き出します。信じて、任せて、待ちましょう。

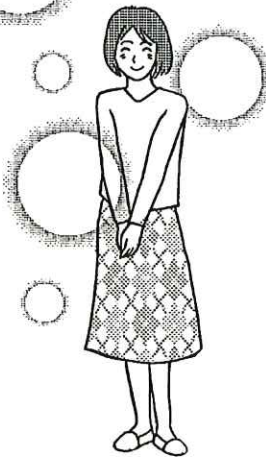
私達は不登校の親の苦しみに15年間寄り添い続けてきました。親が元気になるれば、子どもも楽になれると信じてきたからです。その間、学校や先生方とも共同することが不可欠と感じ続けてきました。

そこで今回、吉川市の助成を受け、学校・先生方の意見もお聞きしながら、不登校を理解するためのパンフレットを作るに至りました。

その過程で、先生方の思いに触れ、親達の苦しみを伝えることができたと思います。また、今後の関係作りの一援助になれば幸いです。

目次

1.子どもが学校に行かなくなった時	4
2.家庭訪問	5
3.不登校の子の行事の参加	6
4.居場所について	7
5.子どもの気持ちを理解する	8
6.回復の過程	10
体験談・専門家から	12
相談情報など	16



1. 子どもが学校に行かなくなった時

親の思い

私の育て方が悪かったのかしら？

他の子はちゃんと行くのに

親自身を責める
(精神的に追い詰められることもある)

先生の思い

教室に来てほしい

様子が知りたいなあ

朝の出欠の連絡

起きなさい!!

がんばって起こそうとしたけど

今朝も行かせることが出来なかった

敗北感

毎朝このことを電話するのがつらい

まだ連絡来ないなあ心配だ

出欠も確認したいし

そうですか長くお休みになるようでしたら連絡は...

うちの子まだ不登校じゃありませんから

ーと言われてしまった...うーん...

相手の思いを確かめ合うのが大事です

(対応例)

あの子はメールかラインでもいいですか？

学校の行ける時に電話するのでもいいですよ

ええ

毎日の欠席連絡大変じゃないですか？

連絡方法については相談しましょう

いろんなパターンがあります

家庭訪問来てほしい

ほしくない

配布物ほしい

ほしくない

その家庭に沿った解決策を

※ご家庭によっては福祉に繋げるケースもあります



S先生の例

2. 家庭訪問

家庭訪問は、会えても会えなくても「元気かな?」と思っている気持ちが大
大事だし、その気持ちが伝わります
以前は、親御さんにいろいろ求めて、対立、または拒否されました
今は「お母さんと一緒に悩み考える」というスタンスで会話しています



子どもを訪問する時

先生が子どもが先生に会いたいか会いたくないかを確認してから訪問すると子どもは安心します



3. 不登校の子の行事の参加

調査の結果 参加の基準は各学校に任されている(事前授業に〇割参加など)参加したい気持ちがあれば、できるだけ参加させたいという教員が多かった。小学生と中学生は、発達段階が違うから、参加の仕方には、年齢に応じた工夫が要る。



行事について話し合いが行われました

- ・行事だけ参加というのは不平等だ
- ・他の子にしめしがつかない
- ・修学旅行などは観光ではない。学習の一環だから事前授業は一定量必要。
- ・グループで行動する行事もあるし安全面も...
- ・最低限の練習をしないと本人がとまどう

❀話し合いの結果❀

子どもはひとりひとり違うのだから「その子に必要な支援をする」のが平等ではないか



4. 居場所について

「安心していられる人と場所」が必要です



元気になってきたら…

「それぞれの子どもに合った学びの場」につなげることが大切です



学校の門をくぐることでできる
子どもへの取り組みの例



※適応指導教室(宇宙とは別)

試行で市内中学にて「特別支援学級を活用した不登校生徒の居場所、※適応支援教室」を実施
(不登校生徒のサポートに特別支援学級の弾力的運用…文科省)

「自分にも通える場所がある」ことで自信がつけ、登校時間が増えた先生がいて勉強できる学力が向上した

今の社会はまだ親も学校も「学校に復帰させるのが使命」という風潮があります。

「学校以外」を選ぶ子達に、多様な居場所が必要です
教育機会確保法…「学校以外の学びの場が重要」

適応指導教室(少年センター)
フリースクール
ホームエデュケーション など

ご近所の方々から学んだ子どもは、様々な学びがあります





5. 子どもの気持ちを理解する

不登校の多くは「このままでは自分が自分でいられない」という訴え（シグナル）です。

「どうしたら学校に行かせられるか」「子どもを変えよう」とするほどかえって反発し、回復は遅れ心の傷を深めます。

子どもは「気付いてほしくて」シグナルを出しています。気付いてあげることでシグナルは消えていきます。

子どものシグナルは3つあります	
<p>① 症状に表れるシグナル 頭痛 腹痛 不眠など</p> 	<p>緊張の限界を超えると『症状』として表れます。医師に診せて病名がつくこともあります。</p> <p>その場合でも「病気だから」で終わらせずに、心の苦しさに寄り添うことが大事です。</p>
<p>② 声に表れるシグナル 暴言 叫び つぶやき</p>	<p>その言葉にどんな意味が込められているのかに耳をすませることが大事です。</p>
<p>暴言暴力を繰り返していたT君の例</p>  <p>お母さん 病気の犬 飼っていい？ お母さん そんな犬 飼っていい？ え？ そんな犬 飼っていい？ その犬を ガラスを 割ったり バカで！ それでもいい？ T君は自分を犬に たとえて こんな お母さん 飼っていい？ お母さん 飼っていい？ 見捨てないでくれる？ と訴えていたのです</p>	
<p>③ 行動に表れるシグナル 昼夜逆転</p> <p>暴力 パニック</p>	<p>同級生らが学校に行っている昼間に「自分には行けない」という強い引け目を感じています。気を紛らわせる手段の一つとしてゲームが有効な時期もあります。</p> <p>そこまでして分かってほしい気持ちの表れです。ただ、危険だと思ったら、距離をとることが大事です。最低2時間。戻ったら何事もなかったように片付けなど。辛いですが大事なことです。</p>

大人の思いが子ども達に伝わります

先生の思いが伝わる

困った伝染

困った伝染

困ったもんだ

困ったもんだね

先生 Aちゃん
また休み？

A子
また休みだつて
行こつか

会いに
行こつか

元気な
かなあ

元気に
してる

親の思いも伝わる

辛さの伝染

辛さの伝染

あれ？
お母さんの
雰囲気
乗ら
ないな

この子
を
信じ
よう

お母さん！
なんで
ため息
ついで
るの？

お母さん！
なんで
ため息
ついで
るの？

ぼくのせい？
親が自分のせいで
苦しんでいることに敏感です

子どもがどうしたいかが大事です

学校に
行かない
なら
塾に行か
せろ

私は
フリー
スクールが
いいと
思う

少し
でも
学校に
来させ
て
ください

あの
僕の
意見は
どう
ですか

おまえは
だまっ
てる！

子どもを真ん中に 子どもを信じて 任せて 待つことが大切です

僕は
今は
休み
たい

子ども
にも
なん
か
任せ
られ
ない

多くの
大人は
そう
思っ
ます

そうか
わかつた

子どもに任せていい理由
子どもには成長したい、高まりたいという本能があります
元気を回復すれば、動きます(体験談P12,13参照)

子どもの
心ね！
頭で
わかっ
ても
家に
ずっ
と
いる
子ども
を見て
ると
腹が
立つわ

教員も
大変
なんだ
不登校
は
子ども
によつ
て
ちが
うし

不登校のことは、親も先生も迷って当たり前。
ポイントは一人で抱えない、相談出来る人を見つけることです



6. 回復の過程

回復のプロセスは人それぞれであり、行きつ戻りつするものです。

時期	子どもの状況	大人の働きかけ
潜在期	潜在的要素は誰でも持っている 人一倍過敏だったり、感受性が豊かな子は、他の子が叱られている声などに反応し秘かにストレスを溜めていることも多い。発達の問題を抱え、周囲に理解してもらえない。 よく叱られる。 いじめられている。	何気ない会話をしながら状態を把握し、対応する。
回復の初期	学校に行けない自分を責める →責めることで新たに傷を負う 現在の辛さにしか目を向ける事ができない。 昼夜逆転が始まる。 悪い方に考え被害的に受け取る。 「死にたい」「消えたい」自傷行為も。 朝起きられない 無力感 暴言・暴力	親も混乱している。 原因探しをしたり、子どもを責めがち。 この時期に大切なのは、指示、命令、誘導、アドバイスなどをしないこと。 「そんなことで高校に行けるの？」など将来の心配を本人に投げかけない。
中期	多少落ち着くが、まだ刺激には敏感。	「ああそうね」などそのままを受入れる言葉をかける。
後期	心のエネルギーが溜まってくる。 学校に関わることには、まだ怖さがある。	大人は、居場所や進路などの情報を得ておくが子どもへの提供は様子を見ながら。
初動期	やりたいことができて、それに向けて行動する。 自分に合った居場所に、行ってみる。 近い将来のことを考え出す。	例えば適応指導教室に行けたから学校へ…と次の段階に急かないこと。動き出す時期こそ慎重に。

よくある質問



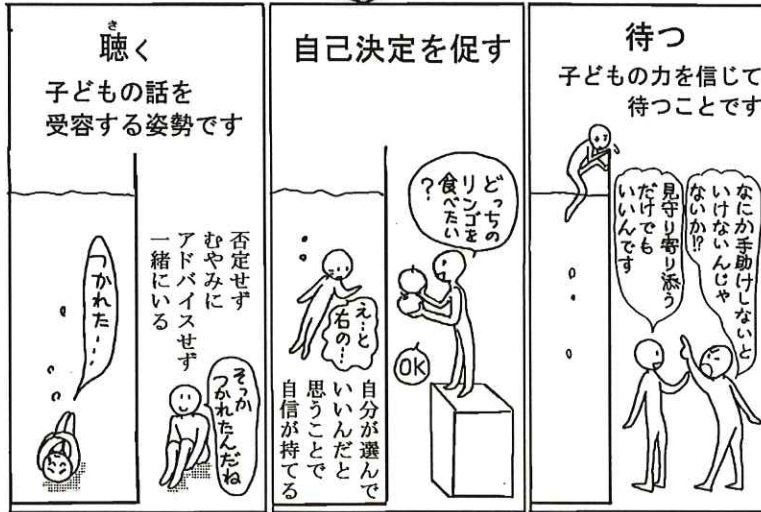
- ①勉強が遅れるのでは？ …不登校を経て成人した人達の多くは「勉強は、やりたい、必要だと思って取り組んだ時に身に付きます」と言います。
- ②社会性が育たないのでは？ …経験者談：「人と接していない時期があっても、元気になれば人と接することができます。『自分を責めない、許す』という自分との付き合い方が休んでいる時に出来たら、人と付き合うことが楽にできました」
- ③進路が閉ざされるのでは？ …欠席が多くても、入れる高校はたくさんあります。

「学校に行けない自分はダメだ」という思いが、エネルギーを奪う

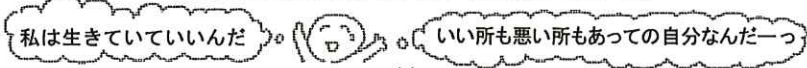


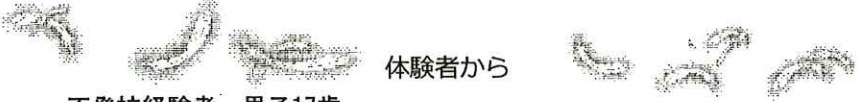
Q. 日本では「自分がダメ」と思う子が多いのはなぜでしょう？

A. 日本では、親や先生が過剰に子どもに期待して干渉し過ぎることがよくあります。そうすると、「やることを自分の意思で決められない」「自信を持ってない」子が多く育ちます。



「自己肯定感を育む」という視点が大事です





体験者から

不登校経験者 男子17歳

私は小学校五年生の三学期の頃から、学校を休みがちになりました。そして小六に入り、不登校になりました。今考えると、全く気が合わない人がいたからだったと思います。中学校に入るときには、ちゃんと通おうと決心をしたものの、一週間程行ったところで周囲の環境に馴染めずに、再び不登校になりました。その後結局、中学校の教室に入ることは二度とありませんでした。私は家にいるとき、中一の頃は特に何もせずにだらだらと過ごしていました。しかし中学二年生の時担任の先生と、週一回面談するようになりました。そこで先生と学校以外のことも話したことも、中三で部活に参加する気になった大きな理由だと思います。またプラモデルに出会ってからは、プラモ作りに没頭し、学校に行っていない時間のほとんどをプラモデルに費やしました。そして、中三に入り、その担任の先生が顧問だったこともあり、サイエンス部にだけは顔を出すようになりました。そして今は通信制高校に通っています。高校に入った時に中学の時のように不登校にならずに通えているのは、人間関係が全員ほぼゼロからのスタートだったことが大きいと思います。中学校は、小学校の人間関係がだいぶ残った状況だったので不登校になってしまったのだと思います。私は不登校を経験し、不登校は間違いではなく一つの選択肢と捉えています。選ぶ人が少数しかいないために間違っているような扱いを受けているだけで、一つの道だと思います。行かなかったことであった出会いもあったと思うので、私自身不登校は間違ったとは微塵も思っていない。

三郷市さわやか相談員 大熊あゆみ

私が不登校になったのは高校生のときでした。原因となる大きな出来事があったわけではなく、一つ一つで見れば小さなつらいことが日々積み重なっていったように思います。一方で楽しみは何もなく、天秤が傾くようにつらさの方が重くなってしまいました。家を出ようとするとおなかが痛くなる朝が続きます。遅れて教室に入ることが増えるうちに周囲から奇異な目で見られるようになり、学校に行きづらいという思いが強くなっていきました。それに伴い腹痛も強くなり、遅刻や早退、欠席が増え、勉強もわからなくなり……の悪循環に陥り、中退となりました。

当時は「自分はなんてダメなのだろう」と感じ、世間にも親にも顔向けできないという気持ちでいっぱいでした。そんな自分を次第に親が受け入れてくれるようになったことで、気持ちが楽になり、動き出すことができました。その後は大学で心理学を学び、現在は中学校の相談員をしています。

充電の切れそうなスマホは、何をするにも動作が重く、普段通りの動きはできません。じっとエネルギーを溜めることで、また動くことができます。私たち人間も同じですね。子どもが安心して充電できるようにすることが大切だと感じます。

不登校経験者であり当事者の母

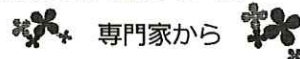
休み時間。虫取りが得意な息子は昇降口を飛び出すと、あっという間に校庭の隅のカマキリを捕まえ、周りの友だちと一緒に目を輝かせた。けれど教室に入ると不安でいっぱい。本人の希望で入学当初から母親の私も教室で付き添ったり、教室に入らず廊下に机を置き一緒に覗き込みながら授業を受けた時期や専門家のアドバイスで学校を休んで水族館や動物園に通ったり、親子で虫捕りの日々もあった。

先生方の温かな対応の傍で見守り続けてくれた級友たち。クラスの中では難しく、図書室で私と給食を食べていた息子を気に掛け友だちが「お母さんじゃなくて僕じゃ駄目かな？」…お陰で少しずつ一緒に食べられる様に。その当時だから許されたのか図書室の他に相談室、言葉の学級…

あちらこちらに居場所もあった。様々な支えのお陰で高学年の頃には、ほぼ通常に過ごせる様になり中学校でも支援をいただきながら、フリースクール・登校型の通信高校を経て、今は好きな生き物関連の専門学校に通いハードながら充実した生活を送っている。

実は私自身も高校生の頃不登校を経験している。両親を悲しませる自分を、ひたすら責め苦しみ続けた。その時に支えになったのは、私を思い流してくれた友人の涙。そして「厳しく、きちんとした教師」だと思い込んでいた担任の、家に招かれた時に見せてくれた悩みながら生きる素の姿と、そこで出会った弱さも欠点もある個性豊かで魅力的な大人たちの存在が、世界の広さを感じさせてくれた。…その私ですら我が子の不登校に直面した時、登校して欲しいと願う日もあった。けれども長い一生の中、立ち止まり自分や周囲を見つめる時間は決して無駄ではないと感じる。

その子の中に必ずある才能や力が、輝き溢れ花開く瞬間を、周りの大人たちがじっくり待ち見守れたらと心から願っている。



美南こころの森クリニック 久保田院長 ～「不登校」について思うこと～

当院にいらっしゃるお子さんは真面目で繊細な方がほとんどです。学校に行きたくても行けない、何らかの理由を抱えていらっしゃいます。診察や心理検査等を元に周囲の理解を促し、適切な環境に導いてあげることで学校に行けるようになる方もいらっしゃいますが、登校促しをしない方がよい場合もあります。学生の特徴としては、症状が重いかたでも少量のお薬でしっかり回復される方が多い印象です。しかし、若さゆえの心の揺れ動きがあり、状態が良くなっても1人で解決が難しい時も多く、不登校で引きこもると大切な対人関係の成長が止まってしまうかねません。

どうしてよいか分からない時は、心療内科や子育て支援センター、市や県が実施している相談窓口(無料電話もあります)などに気軽にご相談なさることをお勧めします。

つばさスクール／つばさ高等学院 学院長 仲野十和田

私たちがつばさに来る子どもたちに最初に心掛けることは、安全な大人だと感じてもらおうことです。教育コーチングでは「一緒にいる」という表現をします。一緒にいることができると、少しずつ心を開いてくれます。それからは面白い位に自分を表現してくれる子もいます。もともと繊細故に傷つきやすい子が多いのですが、それゆえに持っている才能があり、私たちはしばしば驚かされます。

私たちは学校を決して否定しません。しかし、心身共にそこへ向かわないときは一時避難の場所として、来てみるのも良いと思います。子どもたちは、人と関わりたくない、引きこもっていたいということではなく、実は、どの子も人と交わりたと思っています。そして、うまく関われない自分を責め続けています。冒頭に、子どもたちへの接し方を述べましたが、我々大人といるより生徒たちの輪に入れてしまった方が早く慣れます。つばさの生徒たちは経験者なので、「一緒にいることが上手なのです。多少わがままな子がいても、しっかりと、さりげなく受け入れてくれます。

春日部市立武里中学校教諭 石川大樹

※P7参照

～登校支援が必要な生徒という考え方「適応支援教室」～

不登校生徒という言葉がもつ思考停止性が嫌いである。他の思考停止ワードとして「本人の怠け」や「親が甘いから」もある。実際に生徒に接してみると驚くほど豊かな感受性、繊細さ、律義さに出会う。そして個々の支援ニーズを捉えていくと配慮すべき脆弱性(学習、提出物、段取りの弱さ、意思の表明、プチパニック、感覚過敏性、過剰適応性、対人スキル、報告スキルなど)が見えてくる。適応支援教室はアセスメントと環境調整を中心に登校支援を行う場である。

次に、学校の門をくぐることでできる生徒に必要な学びは何だろうか？ 適応支援教室の内容は ①朝の学校に登校すること ②安心できる居場所を確保すること ③小集団の中で対人スキルを磨くこと ④下校も含め、時間割を自己選択し自己決定すること ⑤承認感を得ること ⑥学習行動がとれるようになることである。

全ての生徒に適切な学びの場があり、その子に合った学びが用意され、その子の望む進路につなげていくのが目標である。

本人のうまくいかなさは、受け入れる社会の問題でもあるのだという考え方も大事である。

NPO法人あおいはる 代表理事 轟 司

障がいを持つ方の不登校の相談を受ける事があります。多くのお子さんは、「学校に行きたいけどいけない」という気持ちがあるようでした。私はお付き合いする中で大切にしてきたことは、学校に行く為の支援ではなく、人(大人)を信頼できるための支援でした。

まずは一緒に過ごすことから始め、生活リズムを整え、頑張る為の勉強や作業をし、そして時期を見て学校へ一緒に行きました。社会の中に入る為には、人との繋がりが大切です。学校という限られた社会では特に、苦しい時に支え

となる人の存在が必要です。現実が大きく変わることはありません。しかし理解をしてくれる人が、その子の周りに多くいる事が勇気になります。

是非、そばの人の眼差しが大きな支えになる事を信じ、ひと声かけてもらえたらと思います。「学校に行くことがその子のゴールではなく、目指すものはもっと先にある、地域の中で暮らし続け生きていく事なのですから」と思い日々、人と人が繋がるお手伝いをしています。

千葉大学教育学部教授 片岡洋子 ～不登校の子どもと共におとなも育つ～

文科省が2018年10月25日に公表した2017年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によりますと、小・中学校の不登校児童生徒数は14万4031人にのぼり、1000人当たりの不登校児童生徒数は14.7人で1998年度以降最多となったということです。また、小・中学校いずれの学年でも不登校児童生徒数が前年度より増えました。

どれほどの子どもたちが学校に行っていないかを示すこうした数字はデータとして重要ですが、言うまでもなく不登校の子どもたちの一人ひとりの事情は様々です。友だちや先生がこわい、友だちがいない、勉強がわからない、逆にわかっているのでもつまらない、学校に行く意味がわからない、家のことで心配なことがある、など、いくつもの事情がからんでいることもあります。

いくつもの事情が絡んでいるにもかかわらず、不登校の特定の原因を探しだし、その原因をとりのぞくことができれば、子どもは学校に行くだろうという見方による対応で、子どもを追い詰めてしまった例は数多くあります。子ども自身がなぜ学校に行けないかわからないのに、周囲のおとなが「なぜ学校に行けないのか」と子どもに迫ると、子どもはたまらず、思いつくことを言うかもしれません。しかし、それは一つのきっかけのできごとであっても、それだけで学校に行かなくなったのかどうかはわからないことも多いのです。

子どもが学校に行かなくなったときは、理由はともあれ、子どもが学校に行く気力や体力を持ち合わせていないのですから、気力や体力を回復できるよう、安心して過ごせる居場所が必要です。その安心できる居場所を家庭の中につくることができるのがいちばんです。家庭で安心できないときは、学校の中の教室以外の場所や、放課後の学校でもいいでしょう。居場所とは、物理的な場所だけでなく、そこに安心できる人がいる場所のことです。子どもが安心できるためには、子どもに寄り添い、子どもの気持ちをわかろうとする人が必要です。年齢や事情にもよりますが、子どもは学校に行かない自分の気持ちを他者に言葉で伝えるのはむずかしいでしょう。無理に聞き出そうとせず、学校に行かない自分を責めないよう、子どもに寄り添い、学校に行く、行かないではなく、自分で何かをしようとすることを支える人の存在が、子どもの自己肯定感を高めるでしょう。不登校の子どもに向きあうことは、私たちに、教育とは何かを考えさせ、子どもとともに育つということの意味の深さを教えてくれるでしょう。

相談出来る市内の情報

☆公的機関

吉川市教育委員会学校教育課 少年センター tel.048-981-3864(相談専用)

あおぞら相談室 (各小学校)

さわやか相談室 東中学校 tel.048-982-0055

南中学校 tel.048-981-8749

中央中学校 tel.048-983-2668

スクールカウンセラー(臨床心理士)各中学校

☆NPO法人、民間相談機関

吉川市美南子育て支援センター tel.048-983-5267

つばさ高等学院・つばさスクール tel.048-984-0283

学校に行かない子を持つ親の会(→広報よしかわ に連絡先)

～発達に不安のある方～

☆公的機関

吉川市役所障がい福祉 tel.048-982-5238

☆NPO法人、民間相談機関

社会福祉法人彩凜会 障がい者相談センターすずらん

tel.048-981-8510

よしかわ市発達を支える会ピリブ(問い合わせ:美南子育て支援センター)



あとがき

お忙しい中、快く取材に応じて頂いた先生方、原稿を書いてくださった方々、また教育委員会や少年センターにもご協力いただき、大変感謝しております。パンフレットが出来上がったことにもまして、取材中に先生方と気持ちや考えが伝え合えたこと、メンバー同士で考えを深め合えたこと、とても大きな財産です。「話す」＝「放す」、気持ちが開放されたような気がしています。不登校の子どもと係わる保護者の方・先生方、どうぞ話せる人を見つけ、気持ちを楽にしながら子どもと向き合ってください。『学校に行かない子を持つ親の会』は、親同士が胸の内を吐き出し聴き合うことで心を軽くして元気になり、ゆとりを持って子どもを受け止めることで、子どもも気持ちを楽にして自分と向き合えると考えています。親・学校・地域・行政・関係団体の皆さん、一緒に話をしましょう。子ども達のために大人達が手をつないでいきましょう。

編集 不登校を共に考える会 代表 宮田幸子
協力 学校に行かない子を持つ親の会